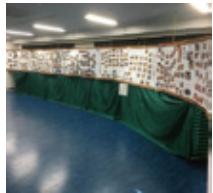


鹿児島県にある、しらゆき保育園様の「成長展」を見学させて頂きました。成長展は保育所保育指針の5領域から1年間で子どもたちがどう発達をしたかの成長過程を保護者に見て頂く行事です。

今回で5回目の実施ということで、工夫した点を園長の原田先生へお聞きしました。「これまで年齢ごとに手形や足形を掲示していたのですが、そうすると保護者は自分の子どもだけを見て帰ってしまうたり、毎回同じ掲示の仕方だと保護者も見慣れてしまうことがありました。そこで職員たちが年齢ごとではなく異年齢で掲示したり、動線を変え、他の子の発達も見て頂けるようになりました」と仰っていました。

ある保護者の方からは、「運指針の健康の領域。異年齢で掲示することで子どもの成長を感じます。」



今年のテーマは「伝統」。巻物にして子どもたちの発達の経過を掲示しています。

毎回試行錯誤の連続と仰っていましたが、大人(保護者)も子どもたちと一緒に成長していくのが成長展なのだと感じさせて頂きました。

愛知県にある、ゆめの樹保育園様にお伺いしました。園に初めてお伺いしたのは、今から3年前。まだ開園して2年目の時でした。その時、「発達から子どもたちを見守つていく保育を行う」と決め、ミマモリングソフトを導入されました。

私たちも先生方と一緒に成長していくよう、挑戦を続けていきたいと思います。

変化し続ける成長展

動会や発表会はその時の成長を感じられるけれど、成長展は子どもたちの1年の成長を感じられる。」そんな言葉も頂いたそうです。

歩みを振り返る

理念を信じる

ながらも、先生たちが子ども

平素より弊社の商品をご愛顧頂きありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願ひいたします。

愛知県にある、ゆめの樹保育園様にお伺いしました。園に初めてお伺いしたのは、今から3年前。まだ開園して2年目の時でした。その時、「発達から子どもたちを見守つていく保育を行う」と決め、ミマモリングソフトを導入されました。

今回の訪問では、園長先生と一緒にこれまでの3年間をビフォア、アフターで振り返りました。園の先生の温かな笑顔や柔らかい雰囲気は、3年前にお会いした時と変わりません。「見えて、変わらないように見えます」と园長先生から、こんな変化のお話を伺いました。

これまで振り返り、これまでを振り返り、これからを見据えた園長先生のお言葉に、変わり続ける強さを教えて頂いています。

理念と実践で 絆を結びます



【上】「スプーンの持ち方」写真
【下】机用、床用を分けた、雑巾バケツ
【右】遊食寝を分けるパーテーション

子どもたちの発達を見守るための手作りされた環境が並んでいます!

茨城県の大宝保育園様で、理念研修を行いました。保育園の理念は「人ひとりを幸せにして世界平和に貢献する」ですが、研修では園内の保育環境や実践について、どんな意味や背景があり、理念どう繋がっているのか等を、理事長の山内先生のお言葉から改めて一つひとつ紐解き、全職員で確認してきました。

そんな中、毎日行っている保育実践のひとつでもある「ハイハイ運動」の話があがりました。もう30年前に子どもが池に落ちた事故をきっかけに始められたそうで、その後は、単に危険な環境を子どもから取り除くという対策で終わらせず、子どもが危険な時に自分の身体を自ら守ることができるよう…と、体幹を育て、回避能力をつけるため「ハイハイ運動」を取り入れたといいます。事故で心を痛め



理念にむかって、長年築いてきた伝統や仲間との団結力が光ります!

のチカラ、可能性を信じ前に進んでこれら、そんな苦難を乗り越え、実践し続けた結果「今」があるということを知り、なんだか心打たれるものがありました。

先のことは分からず、時に不安や不信が生じるものですが、過去の決断や選択が今に繋がり、また今の決断や選択が未来に繋がることを確かに感じました。私たちも、「見悪いことのように思える出来事が起きた時こそ理念を信じ、しっかりと現実を受けとめる強さを持ち、大切なものを守つていただら」と思います。

